

SPECIAL PARTS
TAKEGAWA **DLCD ST1 KIT** D-TYPE LCD SPEED & TACHO
instruction manual
DタイプLCDスピード&タコメーター 取扱説明書

製品番号 05-05-0039

車両仕様 ノーマルヘッドライトケース装着車
弊社製 128-D マルチフレクターヘッドライト装着車



対象車両	フレーム NO.
12V モンキー	Z50J-2000001 ~ /AB27-1000001 ~ 1899999
12V ゴリラ	Z50J-2500001 ~ /AB27-1000001 ~ 1899999
モンキー (FI)	AB27-1900001 ~
エイブ 50	AC16-1000001 ~ 1599999
エイブ 50 (FI)	AC16-1600001 ~
エイブ 50 (FI) タイプ D	AC18-1000001 ~
エイブ 100	HC07-1000001 ~ 1599999/HC07-1600001 ~
エイブ 100 タイプ D	HC13-1000001 ~

まえがき

この度は、弊社製品をお買い上げ頂き有難うございます。ご使用につきましては、下記内容をご理解の上ご使用下さいませ。様お願い申し上げます。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- 取り付けの際には、工具等を準備し、取付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。尚、この取扱説明書は基本的な技能や知識を持った方を対象としております。取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へご依頼されることをお勧め致します。
- 当製品使用中に発生した事故、怪我、物品の破損等に関して如何なる場合においても弊社は賠償の責任を一切負いかねます。
- 当製品を取り付け使用し、当製品以外に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- 他社製品との組合せは保証対象外になりますのでご遠慮願います。
- 当製品を加工等された場合は保証の対象にはなりません。
- 性能、デザイン、価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
- クレームについては、材料及び、加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として修理又は交換させて頂きますが、工賃その他費用は対象となりません。
- この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいませお願い致します。

注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物の損害が想定される内容を示しています。

- 作業を行う際は、必ず冷間時（エンジンやマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品破損・ケガの原因となります。）
- 製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）

警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 技術、知識のない方は、作業を行わない下さい。（技術、知識不足等による作業ミスで、部品破損により、事故につながる恐れがあります。）
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
- 点検、整備を行った際、損傷部品が見つかった場合、その部品を再使用せず損傷部品の交換を行ってください。（そのまま使用すると、部品破損により、事故につながる恐れがあります。）
- エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉したような場所では、エンジンを始動しないで下さい。（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みの有無を確認し、緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。（部品の脱落等で、事故につながる恐れがあります。）
- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
- 点検や整備を行う際は、当取扱説明書やサービスマニュアル等に記載されている、要領、手順に従ってください。（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）
- 指定した部品以外の部品使用は、一切行わないで下さい。（部品破損により事故につながる恐れがあります。）
- 酸化したガソリンの滞留は危険性が有る為、通気の良い場所で作業を行ってください。

株式会社 スペシャルパーツ 式川 〒584-0069 大阪府富田林市錦織東 3-5-16
TEL:0721-25-1357 FAX:0721-24-5059 URL http://www.takegawa.co.jp

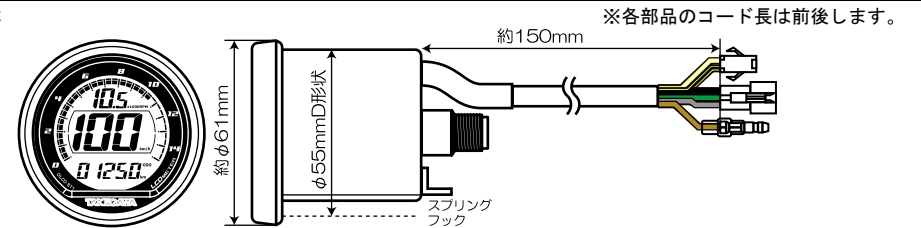
ご使用上の注意点

[ヘッドライト OFF での走行禁止 / 保安部品を外したレース用車両]
ヘッドライト常時点灯車を安易な改造（断線させるだけ）によりライト OFF 状態にして走行すると消費されない電力が車体全体の電圧を上げてしまいます。そのまま走行を続けると、過充電によるバッテリーの劣化や過度の負担により純正レギュレーターが故障してしまう可能性があります。ノーマルよりも高いエンジン回転数で走行するエンジン改造車では、悪影響がより強くなります。ヘッドライトが球切れしてしまった場合は、直ちに走行を止めるか、どうしても走行する必要がある場合はハイビームに切り替えて（光軸も調整して）下さい。この時、なるべく低回転で走行して下さい。レース用車両ですべての保安部品を外すには、専門的な知識と代替部品や追加部品が必要となります。

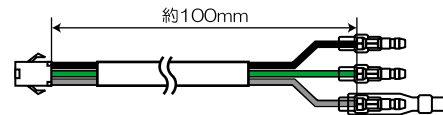
- 社外品の H.I.D. キット、他社製 LED ヘッドライトやフォグランプ類は、絶対に同時装着しないで下さい。バラスト / インバーター（電圧変換装置）からデジタル回路の悪影響を与える高電圧ノイズが出る物があり、製品故障や動作不良の原因となります。
- 社外品の点火装置及び、イグニッションコイルやプラグコード、レーシングプラグ（抵抗無しタイプ）は悪影響ノイズの増大により故障の原因となる可能性がありますので取り付けしないで下さい。また、点火系部品の劣化も点火ノイズ増大に関係します。
- 社外品の発電装置は充電力不足によるバッテリー電圧の低下、制御電圧の不具合により故障の原因となる可能性がありますので取り付けしないで下さい。
- 炎天下での放置にご注意下さい。長期、野外にバイクを置く場合はカバー等をかけてください。炎天下の中など、過酷な条件下で長期放置しますと、樹脂やゴム製部品の劣化や変形の恐れがあります。
- 本製品は完全防水ではありません。防滴構造ですので雨などの通常の水濡れ程度では内部に水は入りませんが、完全防水ではありませんので水の中に浸すなどすると水が浸入してしまいます。万が一本体に水が入ってしまった場合は直ちに使用を止めて下さい。また、湿度が高い時、急激な温度変化があった場合などに本体が湿気を吸い込みパネル内面に曇りが発生可能性があります。
- 激しい衝撃を与えないで下さい。オフロード走行やジャンプ、ウイリーなど、メーターに強い衝撃を与える行為は行わないで下さい。衝撃によっては内部部品の欠落、ボディーの損傷の恐れがあります。

キット内容

メーター本体

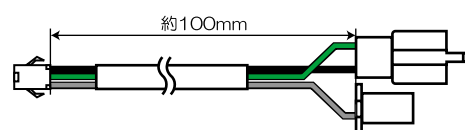


電源サブコードギボシタイプ



- モンキー・ゴリラキャブレター車
 - エイブ 50 キャブレター車
 - エイブ 100 全車
- リペアパーツ品番 00-05-0068

電源サブコードカブラータイプ



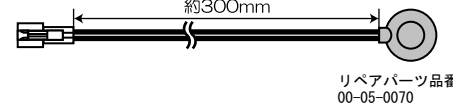
- モンキー (FI)
 - エイブ 50 (FI)
- リペアパーツ品番 00-05-0069

熱収縮チューブφ 12X50



リペアパーツ品番 090-00-0057 (3個入り)

外部スイッチ



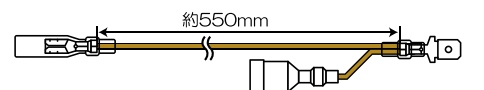
リペアパーツ品番 00-05-0070

RPMコード A 600mm (茶)



リペアパーツ品番 00-05-0071

RPMコード B 550mm (茶)



リペアパーツ品番 00-05-0072

メータークッション



SPECIAL PARTS
TAKEGAWA

ノーマルメーターの取り外しと LCD メーターの取り付け

- ・ プライヤーでケーブルロックナットを回し、スピードメーターケーブルの接続を外して下さい。
- ・ メーターから接続されているギボシやカプラーをすべて抜いて下さい。
- ・ フックからセッティングスプリングを外すとメーターを上方に取り出す事が出来ます。

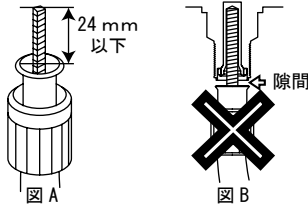
モンキー (FI) の燃料残量警告灯を LCD メーターに内蔵しています。ノーマルの燃料残量警告灯は必要なくなりますので取り外して下さい。

12V モンキー・ゴリラ（キャブレター車）、モンキー（FI）の速度警告灯装置は機能しません。4本のギボシを抜き、スクリュー1本を外すと取り外せます。
※モンキー（FI）は速度警告ユニットがメーター内にあります。

付属のメータークッションをLCDメーターに取り付け、
 ライトケースに差し込んで下さい。
 セッティングスプリングをフックに引っ掛けて下さい。
 ケーブルがメータークリップ接続部の奥まで差し込んだ
 事を確認してから、ケーブルロックナットを締めて下
 さい。走行中にケーブルの接続が外れないようブライヤ
 ーなどを使いしっかりと取り付けて下さい。
 取り付け後も緩みが無いか定期的に点検して下さい。

本製品は JIS 規格に基いたケーブル差込部形状を採用しております。
外品や他車種のケーブルを流用する場合、以下の事に注意して下さい。

ケーブルアウターからのケーブルの飛び出し量を測って下さい(図A)。
24mmを超える場合はその部分をカットして下さい。
図Bのように底につき、上に押し上げた状態で使用されますと回転部が激しく磨耗してしまい、正確な速度を認識出来なくなってしまうます。

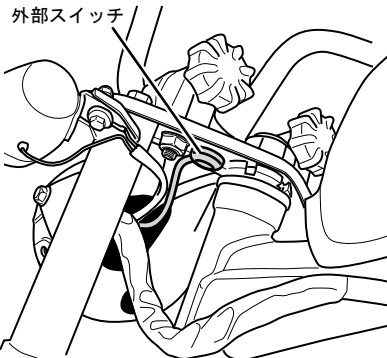
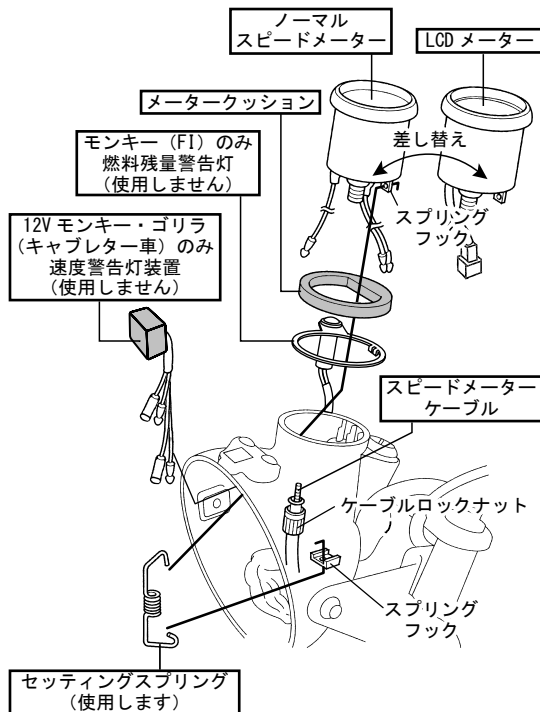
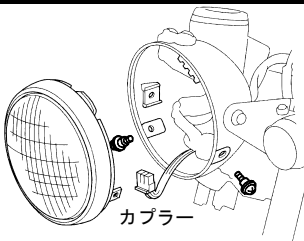


外部スイッチをトップブリッジ裏面に貼り付け、ヘッドライト
後方の穴に配線を通して下さい。
※少々の水濡れは問題ありませんが、雨水が直接当たらない場所に
スイッチ貼り付けて下さい。

〔スイッチの使用についてのアドバイス〕
オド⇄トリップの切り替えやトリップのリセットで使います。

配線を少しでもすっきりさせたい方は、ヘッドライト後方の穴の内側（指が届く場所）へ貼り付ける事も可能です。

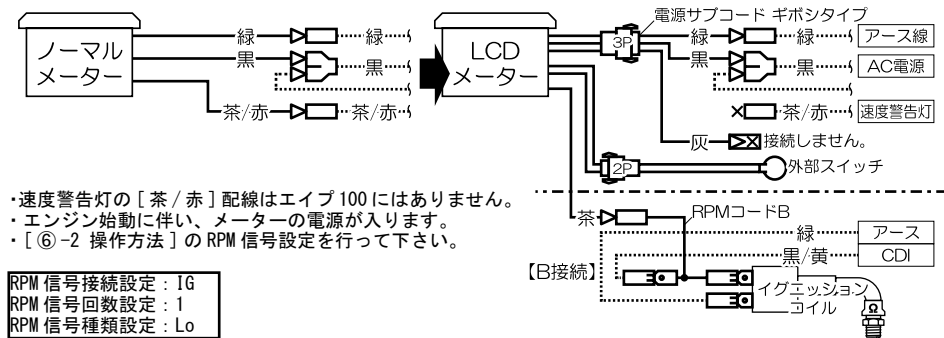
外部スイッチ



配線色	機能	Color	Function
黒	電源（バッテリー付車：DC12V バッテリーレス車：AC12V）	Black	Power Input (DC12V/AC12V)
緑	メインアース（GND）	Green	Main GND
灰	フューエルセンサー入力（モンキー（F1）のみ対応）	Gray	Fuel Signal Input
茶	RPM 信号入力（パルス）	Brown	RPM Signal Input (Pulse)
黄 / 黒	外部スイッチ入力	Yellow/Black	Separate Switch
黄 / 白	外部スイッチ入力（GND）	Yellow/White	Separate Switch (GND)

モデルにより配線図が異なります。車両適合表をご確認の上〔⑤-2 配線図一覧〕に進み、作業を行ってください。

バッテリーレス電源車	車種	エンジン仕様	電源	フレーム No.
	エイブ 50	キャブレター	バッテリーレス	AC16-1000001 ~ 1599999
	エイブ 100	キャブレター	バッテリーレス	HC07-1000001 ~ 1599999



「AC 電源とは」

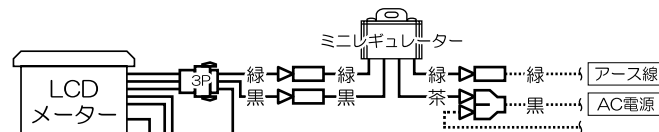
＝交流電源。エンジン始動に伴い電圧が発生し、回転数により電圧が変動する不安定な電源です。車体仕様差はありますが、いくつかの不安要素（高回転時のライトの球切れによる過電圧や、低回転時の電圧不足など）を伴っています。電圧や周波数、波形が安定していないので、一般的なテスターでは正確な電圧を測定出来ません。

「ミニレギュレーターのご案内」

オプション販売のミニレギュレーターを電源配線間に割り込ませる事で、電装部品の改造や高回転時のライトの球切れなどにバッテリーレス車の不安要素からメーターを保護します。(最大 40V まで)

ミニレギュレーターキット 品番: 05-06-0001

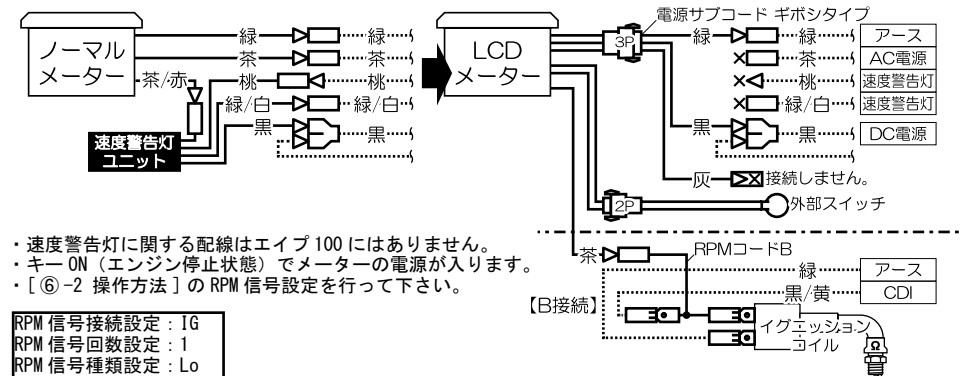
本製品は幅広いAC電圧（8～16V）と一時的な過電圧（18Vで1時間、24Vで1分間）に対応した構造ですので、通常の
使用ではミニレギュレーター無しで問題ありません。



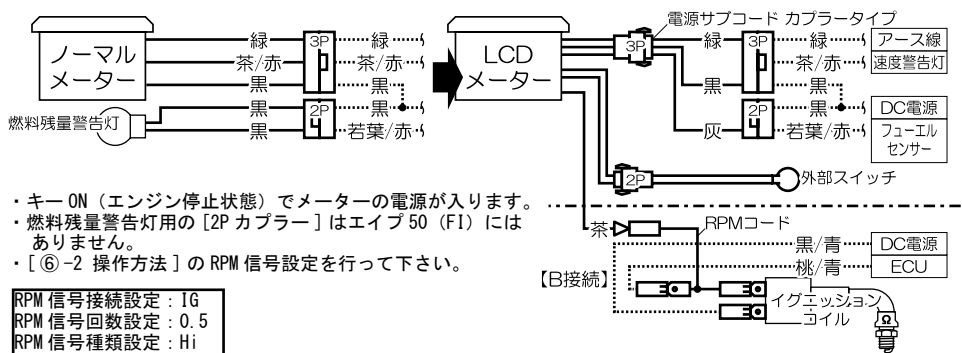
⑤-1 ~ ⑤-2 の配線接続作業後、逆の手順で再組み付けして下さい。

⑤-2 配線図一覧

	車種	エンジン仕様	電源	フレーム No.
12V バッテリー電源車	12V モンキー	キャブレター	12V バッテリー	Z50J-2000001 ~ AB27-1000001 ~ 1899999
	12V ゴリラ	キャブレター	12V バッテリー	Z50J-2500001 ~ AB27-1000001 ~ 1899999
	エイブ 100	キャブレター	12V バッテリー	HC07-1600001 ~
	エイブ 100 タイプ D	キャブレター	12V バッテリー	HC13-1000001 ~



	車種	エンジン仕様	電源	フレーム No.
12V バッテリー電源車	モンキー (F1)	インジェクション	12V バッテリー	AB27-1900001 ~
	エイブ 50 (F1)	インジェクション	12V バッテリー	AC16-1600001 ~
	エイブ 50 タイプ D	インジェクション	12V バッテリー	AC18-1000001 ~

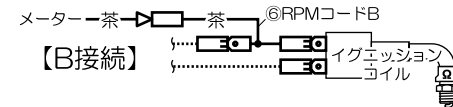


キー ON だけで電源が入らない場合はバッテリーの劣化もしくは誤配線が原因です。完全に劣化しているバッテリーを使うと、高回転時に過電圧になるばかりか、過度の負担により純正レギュレーターが故障してしまう可能性があります。

[DC 電源とは]
 = 直流電源。キー ON (エンジン停止状態) 時からエンジン稼動中まで比較的電圧が安定しているバッテリー電源です。車体仕様差はありますが一般的なテスターで電圧を測定すると、キー ON 時 12.5 ~ 13V 前後、走行中は ~ 14.5V 前後となります。
 ※バッテリー付き車でも、エンジン始動に伴い電圧の発生する配線 (ヘッドライトや尾灯) は AC 電源となります。
 [アドバイス]
 エンジンを停止状態でブレーキランプを点け、さらにウインカーを点けて下さい。点滅速度が異常であればバッテリーが弱っています。

⑤-3 RPM 信号入力 (汎用説明)

特別な改造を行っていない場合、[⑤-2 配線図一覧] に記載の【B 接続】で正しく作動しますので、[⑥ 操作方法] に進んでください。



本製品は、汎用性の高い仕様のタコメーター回路とプログラムを装備しています。
 [⑤-2 配線図一覧] に記載の【B 接続】方法でタコメーターが正しく作動しない場合、以下の内容をご確認下さい。
 (汎用説明文の為、一부분本製品の適合車種と関係ない内容があります。)

RPM 信号設定

RPM 信号接続設定: RPM コード接続先の種類を選択します。
 値により [RPM 信号回数設定] と [RPM 信号種類設定] の設定範囲が変化します。
 RPM 信号回数設定: クランクシャフト 1 回転あたりの信号回数の設定です。
 設定値が合っていないと、きっちり半分、2 倍表示、3 倍・・となります。
 RPM 信号種類設定: 読み込みプログラムの種類を選択します。正常に作動しない場合、切り替えて下さい。
 切り替えにより、同じ接続方法でも正常作動する事があります。
 この設定値の誤りが原因で故障する事はありません。

関連ページ ⑥-2 操作方法関連ページ

【A 接続】【B 接続】【C 接続】3WAY RPM 信号入力

本製品は【A 接続】ハイテンションコード表面と【B 接続】イグニッションコイル 1 次側、【C 接続】ピックアップパルスの読み込みが可能で、幅広い車種でご使用いただけます。
 キャブレター車は、【C 接続】→【A 接続】→【B 接続】の順番で作動する方法を探して下さい。
 ※【C 接続】の説明と注意にある適合に関して不明な点がある場合は、【A 接続】から行う事をお勧め致します。
 インジェクション車は【A 接続】→【B 接続】の順番で作動する方法を探して下さい。

悪影響を及ぼす社外部品を使わないで下さい。

■スパーク力を強くすると、それに応じて点火ノイズも増大します。
 イグニッションコイルやハイテンションコード、プラグキャップ、レーシングプラグ (抵抗無しタイプ)、社外 CDI 等の改造が大きな悪影響となる場合があります。
 ■点火系部品の劣化も点火ノイズ増大に関係します。
 特にハイテンションコード表面の劣化 & 水濡れには注意して下さい。

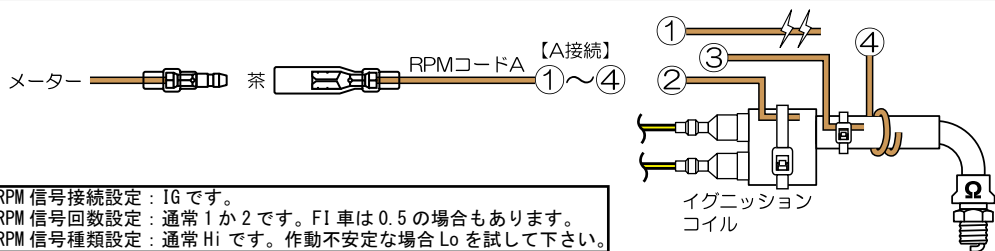
様子を確認しながら配線作業を行ってください。

信号を拾う方法は複数あります。面倒かと思いますが、必ず推奨の方法から順に試して下さい。
 タコメーターが正常に動く範囲で可能な限り悪影響の低い (信号電圧が低い、ノイズが少ない) 方法を見つけて下さい。
 信号を拾う方法と合わせて、メーター側の [RPM 信号種類設定] の変更も試して下さい。

⑤ -3 RPM 信号入力（汎用説明）

【A 接続】①②③④ RPM コード A の配線方法

プラグがスパークする際、ハイテンションコードやイグニッションコイルには非常に高い電圧が流れ、それを回路的に非接触で信号として拾います。



- 小ノイズの影響 ↓ 大
- ① 付近のフレームやカウルなど車体側にコードを貼り付けるとアンテナ状態で読み取ります。ノイズが強すぎて、下記配線では表示が乱れてしまう場合の方法です。（読み取れない可能性があります。）
 - ② イグニッションコイルボディー表面に 20mm 程度コードを沿わせてタイラップ等で固定します。（最も推奨の方法で、多くのバイクで信号を拾えます。）
 - ③ ハイテンションコードに 20mm ～ 30mm 程度コードを沿わせてタイラップ等で固定して下さい。保護チューブがある所の方が若干ノイズは小さくなります。付属の熱収縮チューブで配線処理を仕上げて下さい。
 - ④ ハイテンションコードに巻き付け、発生した電気で信号を拾います。最初は 1 回巻きから試し、指針が動かない時は巻き数を増やして下さい。数値が大きく暴れている場合は強いノイズの影響ですので、巻き数を増やしても直りません。最後に付属の熱収縮チューブで配線処理を仕上げて下さい。

- まず②の方法を試して下さい。この方法で表示が不安定に乱れる場合は①の方法を試して下さい。数値が“0”のまま全く動かない場合は③→④と試して行って下さい。
- ②の方法で作動出来ない場合はノイズがかなり強いのか点火信号が特殊な可能性があります。また、バイク側部品の不具合も考えられますので、そちらのチェックも行って下さい。
- 配線調整により、微妙な数値誤差が生じる可能性はほとんどありません。正常な数値を表示出来るか、出来ないかはっきりしています。

RPM コードの余分な部分はノイズ悪影響の原因にもなりますので、切断し丁度良い長さで取り付けして下さい。また、切断しすぎて長さが足りなくなった場合は市販のコードで代用出来ます。

・RPM コード A を絶縁テープなどで仮止めし、軽い空吹かしにて作動確認を行って下さい。

- 【A 接続】の③や④で RPM 信号入力を採用した場合、付属の熱収縮チューブを使い仕上げて下さい。
- ハイテンションコードからプラグキャップを外します。
- 熱収縮チューブを RPM コード A の上まで通し、ドライヤーなどで収縮させて下さい。収縮温度：90℃以上、約 50%の内径まで収縮します。
- 【A 接続】の③は配線が抜け易いので、タイラップ等で上からしっかり止めて下さい。
- 最後にプラグキャップをしっかり取り付けて下さい。

警告 RPM コードを仮止した状態で“突走行”は危険ですのでお止め下さい。



memo

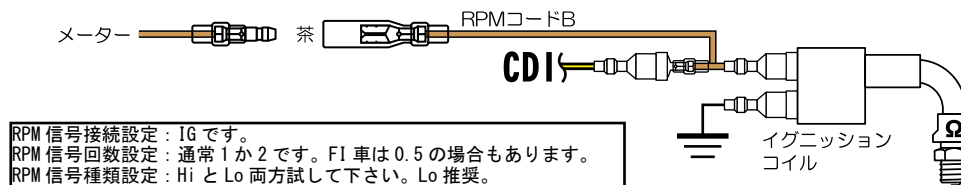
⑤ -3 RPM 信号入力（汎用説明）

【B 接続】RPM コード B の配線方法

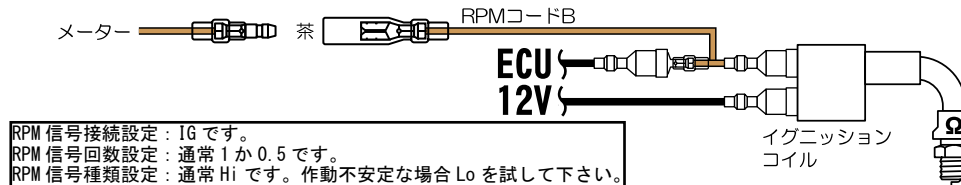
- イグニッションコイルの 1 次側に配線を割り込ませて、直接信号を拾う方法です。プラス電圧点火方式とマイナス電圧点火方式の 2 種類あり、それぞれで接続箇所が異なります。
 - 【B 接続】はバイクの高電圧部に配線を直接接続するので、【A 接続】や【C 接続】と比較すると、想定外の外品点火装置などからの悪影響をそのまま受けてしまいます。他の方法で作動しない場合、最後に試して下さい。
- ※メーター故障が起こり易い接続方法という訳ではありません。
他の方法と比較すると、順番的に最後に行って頂きたい接続方法です。

- メーカー発行の配線図で、イグニッションコイルに接続されている配線が 1 本（ボルト固定部がアースを兼ねる）、または、2 本でもその片方がアース源であれば上図（プラス電圧点火方式）になります。ほとんどのキャブレター車がこの方式です。
 - メーカー発行の配線図で、イグニッションコイルに接続されている配線が 2 本あり、その内の片方が DC12V 電源であれば下図（マイナス電圧点火方式）になります。
- ミニバイクではモンキー（FI）やエイブ（FI）、アドレス V125GK9 以降がこの方式です。
インジェクション車に多い方式です。

【B 接続】プラス電圧点火方式（キャブレター車、インジェクション車の一部） 関連ページ⑥ -2 操作方法

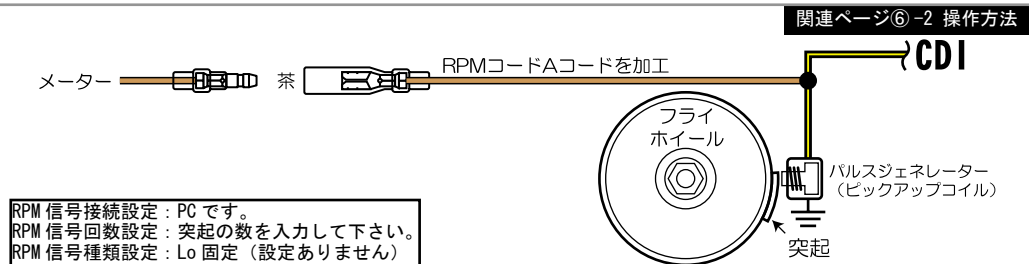


【B 接続】マイナス電圧点火方式（インジェクション車） 関連ページ⑥ -2 操作方法

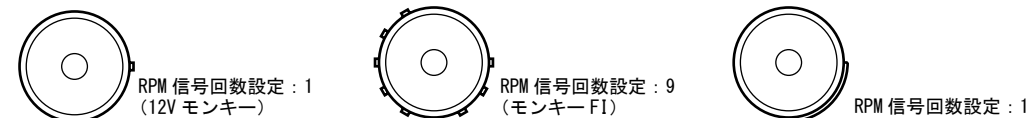


【C 接続】RPM コードの配線方法

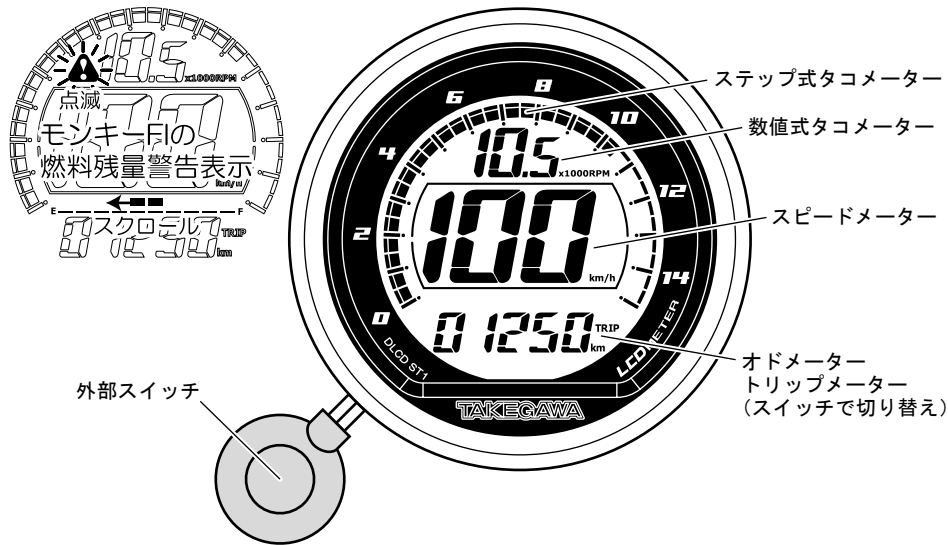
- C 接続はピックアップ信号線から分岐します。点火タイミング用ですので電圧やノイズが小さく、メーターへ悪影響の低い信号です。
- ピックアップコイル（パルスジェネレーター）がフライホイール外側にあるバイク用です。CDI 点火初期のモデルに多い、独立したピックアップコイルが無い（点火コイル電圧の一部をピックアップ信号として使用している）バイクや外品インナーローターでは電圧が高過ぎる可能性があるため接続しないで下さい。
- フライホイール外周にある突起の数が 20 個まで対応します。（不等間隔対応）



RPM 信号回数設定の例



⑥-1 表示と機能の一覧

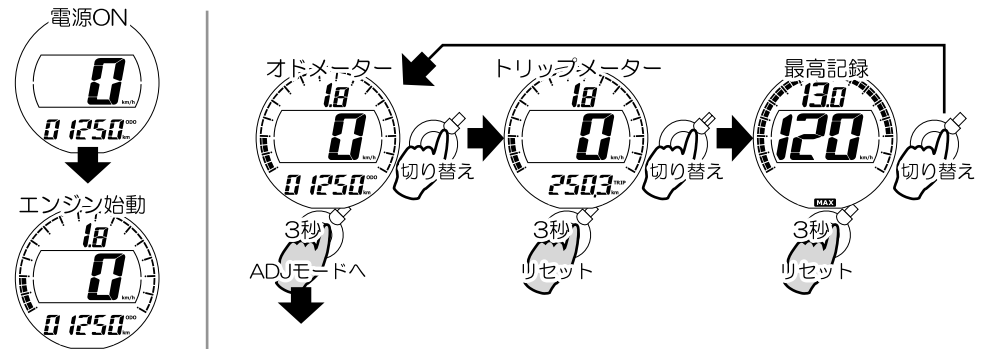


外部スイッチ	■日常使用 ・オドメーター / トリップメーター / 最高記録の表示切り替え。 ・トリップメーター / 最高記録、各表示中に 3 秒以上長押しでリセット。 ■オドメーター表示中に 3 秒以上長押しで ADJ モードに入る。 ・ADJ モード内 短押し：設定値の変更 長押し：次項目に進む
スピードメーター	最高表示 199km/h メーターケーブルの逆回転（左回り）対応。
オドメーター	～ 99999km (1km 単位)
トリップメーター	～ 999.9km (100m 単位)
速度補正設定	速度表示の「ズレ」を補正可能。設定範囲：50 ～ 210% 関連ページ⑥-2
数値式タコメーター	電気式、最高 19900rpm、100rpm 単位
ステップ式タコメーター	電気式、最高 15000rpm、500rpm 単位
RPM 信号設定	[RPM 信号接続設定] [RPM 信号回数設定] [RPM 信号種類設定] RPM 信号入力に関する各種設定機能を備えています。 関連ページ⑥-2
3WAY RPM 信号入力	3 種類の異なる RPM 信号の読み取り接続可能。 [A 接続] [B 接続] [C 接続] 関連ページ⑤-3
最高記録	スピードメーターとタコメーターの最高値を記録。
燃料残量警告表示	モンキー (F1) の燃料残量警告灯をメーターに内蔵 LCD に警告表示します。 (モンキー (F1) 以外の車両では使用出来ません。) 関連ページ⑤-2
バックライト	ホワイト LED、5 段階の明るさ調整付き。発光ムラが少なく、視認性に優れています。 関連ページ⑥-2
■内蔵電池を必要としないフラッシュメモリー式で長期間、電源 OFF でも各種記録を維持します。 ■DC12V 電源、AC12V 電源どちらでも作動可能。 ■作動電圧範囲：DC/AC8V ～ 16V バッテリーレス車において、低回転時でも作動するために最低作動電圧を低めに設定。 ただし、最低電圧付近では液晶文字濃度やバックライトが薄くなります。 ■純正メーターの照明用バルブ (2W) よりも電力消費量が少なくなります。 メーター本体消費電力：※約 1.3W (13V100mA) ※バックライト最高輝度時 バックライト輝度を 1 つ下げる毎に約 12.5mA。(最小値約 50mA)	

⑥-2 操作方法

メーター起動

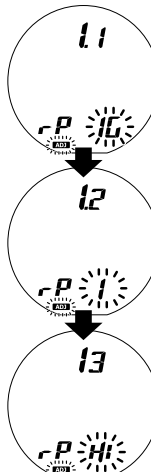
- バッテリー電源車はキー ON で、バッテリーレス電源車は、エンジン始動に伴い電源が入ります。
- 前回 OFF にした時のモードで起動します。
- エンジン始動 (= RPM 信号入力) に伴いタコメーター表示が現れます。
- スイッチを押すと画面下部がオドメーター→トリップメーター→最高記録→オドメーター・・・に切り替わります。
- トリップメーター表示中、スイッチを 3 秒以上長押しして距離をリセット。
- 最高記録表示中、スイッチを 3 秒以上長押しして距離をリセット。



ADJ モード

- 各種設定値の変更、調整を行うモードです。
- オドメーター表示中にスイッチを 3 秒以上長押しで ADJ モードに入ります。
- スイッチ短押し (3 秒以下)：設定値変更
- スイッチ長押し (3 秒以上)：次項目に進む (長押しを続けると項目の自動送り)

1.1	RPM 信号接続設定	RPM コード接続先の種類	IG モード、PC モード
1.2	RPM 信号回数設定	クランクシャフト 1 回転あたりの信号回数	IG モード時：0.5 回、1 ～ 6 回 PC モード時：1 ～ 20 回
1.3	RPM 信号種類設定	読み込みプログラムの種類	IG モード時：Hi 又は Lo PC モード時：Lo 固定
2.1	速度補正設定	補正値を入力	100 の位
2.2		JIS 規格標準値：100%	10 の位
2.3		調整範囲：50% ～ 210%	1 の位
3	バックライト設定	バックライトの輝度を調整	1 ～ 5 (5：最高輝度)



- 1.1 RPM 信号接続設定
RPM コード接続先の種類
IG モード (イグニッションコイル接続)
PC モード (パルスジェネレーター接続)
この値により [1.2] と [1.3] の設定範囲が変化します。
- 1.2 RPM 信号回数設定
クランクシャフト 1 回転あたりの信号回数
IG モード時：0.5 回、1 ～ 6 回
PC モード時：1 ～ 20 回
- 1.3 RPM 信号種類設定
読み込みプログラムの種類
IG モード時：Hi 又は Lo
PC モード時：Lo 固定
[1.1] で PC モード選択時は Lo 固定となる為、[1.3] 設定画面に入らず [2.1] に進みます。



■配線図 標準設定値	
12V バッテリー電源車 (キャブレター)	RPM 信号接続設定：IG RPM 信号回数設定：1 RPM 信号種類設定：Lo
12V バッテリー電源車 (インジェクション)	RPM 信号接続設定：IG RPM 信号回数設定：0.5 RPM 信号種類設定：Hi
バッテリーレス電源車	RPM 信号接続設定：IG RPM 信号回数設定：1 RPM 信号種類設定：Lo

関連ページ ⑤-2 配線図一覧

次ページに続く

⑥-2 操作方法

前ページの続き



■ 2.1 ~ 2.3 速度誤差補正

補正値を入力

調整範囲：50% ~ 210%

JIS標準値：100%

[2.1] 100の位、[2.2] 10の位、[2.3] 1の位



国内車輛はJIS規格によりケーブル回転数が1400rpm時60km/h(=ケーブル1回転あたり714mm進行)と定められており、本製品はこの値を100%とし50%~210%の範囲で補正出来ます。
値を増やすと表示速度が上がり、減らすと表示速度が下がります。例) タイヤが5%大きくなったら設定値は105%

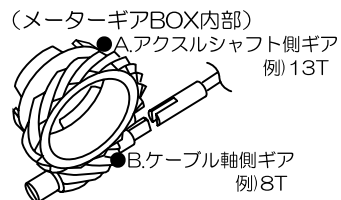
補正不要	■ ノーマルタイヤ、ノーマルメーターギアを使用している場合 ■ ホイールのインチ変更する場合でも、そのホイール用のメーターギアをセットで使用する場合
補正必要	■ メーターギアはノーマルを使用しながら、タイヤ周長がノーマルから変化した場合 ■ 外品のインチアップホイールに交換した場合やタイヤサイズを変更した場合

現在使用しているメーターギアとタイヤ周長から割り出す方法

- メーターギアを分解してギア山数を数えます。
- ギア山数から [C. 標準タイヤ周長 (mm)] を算出します。

$$\frac{A}{B} \times 714 = C$$

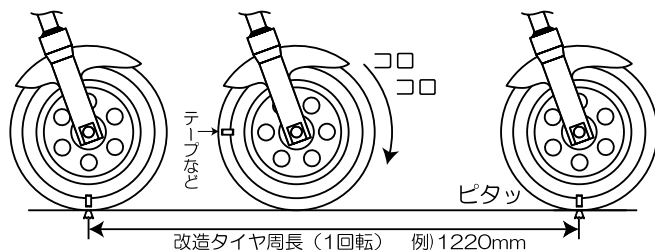
例) 13(T) ÷ 8(T) × 714 ≒ 1160(mm)



ギアボックス種類	モンキーノーマル	武川 10 インチ用
A. アクスルシャフト側	13T	17T
B. ケーブル軸側	8T	9T
C. 標準タイヤ周長	1160mm	1349mm

注意 ※分解時に破損の恐れがあります。
十分に気を付けて作業を行って下さい。

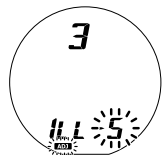
■ 3. テープなどでタイヤと地面に印を付け、改造タイヤを1回転させてその距離 [D. 改造タイヤ周長] を測ります。



■ 4. [C. 標準タイヤ周長] と [D. 改造タイヤ周長] から速度 [補正値] を割り出します。

$$\frac{D}{C} \times 100 = \text{補正値 (\%)}$$

例) 1220(mm) ÷ 1160(mm) × 100 ≒ 105(%)



■ 3 バックライト設定

バックライトの輝度を調整

調整範囲：1 ~ 5

最高輝度：5

